

## 市販の幼児教育教材に関する研究 —「家庭での利用」を中心に—

上田 敏丈<sup>1</sup>・七木田 敦<sup>2</sup>

### A Research of Learning Materials Kits for Preschoolers - From the Viewpoint of Mothers' Evaluation -

Harutomo Ueda<sup>1</sup> and Atsushi Nanakida<sup>2</sup>

In recent years, the number of learning materials kits for preschoolers has been increasing. This study examined mothers' evaluation of learning materials kits for preschoolers. Participants included 147 mothers. The data were collected in the questionnaire. Results indicated (1) mothers provided children the learning materials kits for preschoolers 35% of time, (2) mothers expected children to learn how to organize and take care of themselves by using the materials, (3) motivating children in numbers and characters was the most effective aspect of the materials, (4) cost was considered the highest priority. These conclusions provide us some issues about the learning materials.

**Key Words:** learning materials kits for preschoolers, quality, mothers' evaluation

#### I. はじめに

近年、乳幼児を対象にした早期教育の教室や教材は「三歳からでは遅すぎる」「二歳で漢字が読める」などの宣伝とともに、珍しいものではなくなっている。実際に文字・数に関する教育など幼児期になにか特別なことをすることを売りにした園に人気が集まり、従来からあった遊びを中心にした「幼児期にふさわしい生活」を重視している園はあまり園児が集まらないという現象も起きている。また国際化の風潮を受け、幼児に対する英語教育にはさまざまな教材が用意され、親は選択に迷うほどだという。このような乳幼児期に積極的に刺激を与えて子どもの能力を伸ばそうとする傾向は、単なるブームとしてではなく、一つの幼児教育のあり方として定着しつつあるといえる。

しかし、早期教育の根拠に対しては考慮すべき問題点も指摘されている。例えばエルキンド(1991)は「あやまった早期教育の結果、成長を急がされた子どもは、

さまざまなストレスが与えられ、神経症や神経症的人格形成をうみかねない」としている。他にも大脳生理学の見地からも、早期教育に対して警鐘をならす研究者も少なくない。

無藤(1998)は早期教育に対する議論が、幼児教育のあり方の基本を考える上で必要であることを述べる。つまり「学校教育という狭いイメージを超えて、子どものもともとの学ぼうとする力を生かしつつ社会化するという流れの中で、子どもが学ぶという活動がいかにか成り立つかを見なければならぬ」(p. 203)とする。

本研究では、このような問題意識に立ち、いわゆる市販の幼児教育教材・プログラムがどのように家庭で利用されているのかについて、幼児を育てる保護者に対するアンケートから、明らかにすることを目的にする。

#### II. 市販の幼児教育教材・ プログラムについて

これまでわが国においてどのような市販の幼児教育

1 広島大学大学院教育学研究科博士課程後期  
2 広島大学教育学部附属幼年教育研究施設助教授

教材・プログラムがあるのかを明らかにするために下記の事項についてカテゴリー化し検討した。

- ・製品として
- (1) 値段
- (2) 市場シェア
- (3) キャッチコピー
- (4) 対象年齢
- (5) 付属品

その際に、次の点に注目して、プログラムの特徴を抽出した。

- ・学習プログラムとして
- (1) 依拠する理論や研究
- (2) プログラムの連続性 (胎児～新生児～乳児～幼児～学齢児)
- (3) 学習形態
  - ・母親
  - ・通信
  - ・遊び
- (4) 学習媒体
- (5) 学習領域

### Ⅲ. 幼児教育教材・プログラムの利用に関する研究

市販の幼児教育教材・プログラムを調査するに際して、まず、過去10年間分の日本保育学会論文集を中心に、関係する先行研究について概観した。それらは「知育プログラム」や「早期教育」をキーワードとする抄録や幼児用の玩具・教材を分析対象としている研究を対象とした。これらは以下の5つのカテゴリーへと分類できた。

①媒体(玩具・教材など)にどのようなものがあるのかを分類したもの

ここでは、市販の幼児教育教材や玩具を分類整理する指向性のあるものを含む。例えば、永田(1993)や長谷(1993)は玩具を形態から分類を試みている。また、ベネッセの高島・大内(1996a, 1996b)は、知的教育を「知的発達のために大人が意図的に働きかけること」として、4段階(生活場面の活動:生活場面での知的教育:生活性のある知的教育:早期教育)に分類している。だが、市販の幼児教育教材・プログラムに焦点を当てた研究はまだなされていない。

②媒体と園児の発達能力との関係を調査したもの

ある教材や玩具がどの発達を手助けするのか、あるメディアを利用して保育を行った場合どのような特徴が現れるか、を調査したものである。例えば、大藤(1999)は積み木遊びが問題解決能力の発達に影響すると

述べ、教師が課題を与えて園児が試行錯誤する機会を与える必要があるとしている。ここでのカテゴリーに含まれたものには、結果的に現在の保育でのメディアや玩具のあり方を疑問視するものが少なくなく(岩田, 1993; 松村, 1996; 遠藤, 1998; 森田, 1998)、次の③のカテゴリーと曖昧になるものがある。

③保育環境に媒体をどのように位置づけるかを調査したもの

③のカテゴリーは、保育所や幼稚園のカリキュラムにどのようにして、玩具やメディア(出原, 1993, 1994; 橋爪, 1995; 中橋, 1997)を組み込むかというものである。その意味で、第②のカテゴリーと近似ではあるが、より実践に即したものとして考えられるだろう。

④教材間の比較

青島(1995, 1996, 1997)は早期英語教育ビデオ教材が幼児の英語能力獲得にどのような影響を与えているのかについて明らかにしている。その結果、年少児に対してビデオ教材が有効であるとの結論を引き出している。

⑤親の期待を調査したもの

奥田(1999)は運動系のプログラムに関する早期教育に対する母親の期待について検討している。母親が期待するものは「体力をつけること」「健康になること」「物を大切にすること」「社会的スキルの獲得」の順に多いことを報告している。

### Ⅳ. 市販の幼児教育教材・プログラムに対する意識に関する研究

検索した範囲が限定されてはいるが、市販の幼児教育教材・プログラムに関する研究は少なく、現代の子育て産業の一端を担って隆盛を見せている現状については研究レベルで明らかにされていない。そこで本研究は、早期知育教育に代表される市販の幼児教育教材・プログラムについて、幼児を育てる親がどのように考えているのかを明らかにする。

対象は、子育てをしている親(学齢前の子どものいる母親)250名である。質問紙によって、市販の幼児教育教材・プログラムについてどのように考えているのかを尋ねた。

1. 予備調査(2000/12/2～)

東広島市内で子育てをする母親(60名)を対象に予備調査を実施した。

(調査項目)

(1) 母親の年齢、子どもの数、育児形態、祖父母との同居、育児サークル参加

早期知育教育への関心

(2) 子どもに、文字、数、英語などの早期知育教育を受けさせているか？

- ・将来使おうと思っているか？
- ・その理由

(3) 保育所や幼稚園で早期知育を取り入れる方がよいか？

- ・その理由

2. 市販の幼児教育教材・プログラムに対する子育てをする母親の意識・利用に関する調査

(1) 方法

アンケート調査を実施した。アンケート配布対象は東広島市・福島市・宮崎市に居住しており、就学前の子どものいる母親を中心とした。東広島市においては、子育て支援サークルを中心に150部を配布した。

福島市と宮崎市においては、保育所を中心に各50部を配布した。配布総数250の内、回収されたものは147であった(回収率 58.8%)。アンケート実施期間は、2000年1月に配布を行い、2001年2月末までとした。前述したように調査項目は、①保護者についての情報(年齢、学歴、子どもの数、子どもの年齢、など)と、②幼児教育教材について、の二つで構成されている。

②幼児教育教材については、幼児教育教材の知識について尋ね、受講をしているかどうかで、それぞれ下位の質問へと分岐した。非受講群には、幼稚園での教材利用の是非についてとその理由を自由記述で尋ねた。また、どのような点が改善されたら、受講してもよいかを尋ねた。一方で、受講群には、何を受講しているか、その理由、どこで知ったか、使用方法、使用頻度、好む教材、好む媒体、効果について尋ねた。以下、調査結果を述べる。

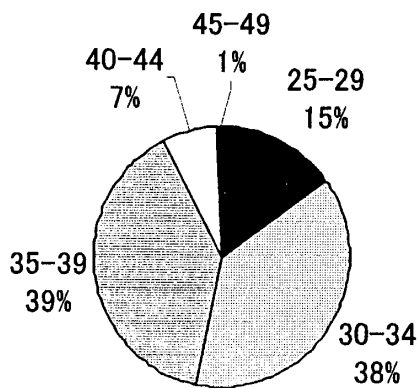


図1 年齢

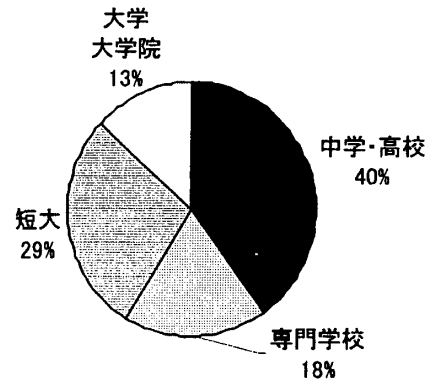


図2 学歴

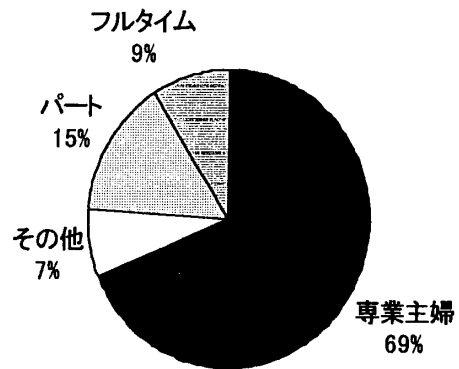


図3 就業形態

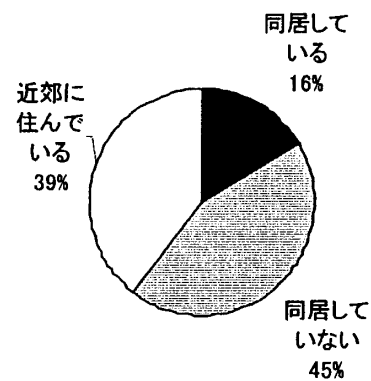


図4 祖父母との同居

(2) 結果と考察

A. 保護者について

年齢については、30代の母親が全体の70%強を占めていた(図1)。学歴では、中学・高校卒が40%を占め、ついで、短大と専門学校が47%であった(図2)。対象とした母親の就業形態は、約70%が専業主婦であり、祖父母と同居している、あるいは近郊に住んでいるが55%であった(図3、図4)。

子育ての主たる場所については、52%が家庭での育児を中心としていた。これは、子育て支援のサークルに

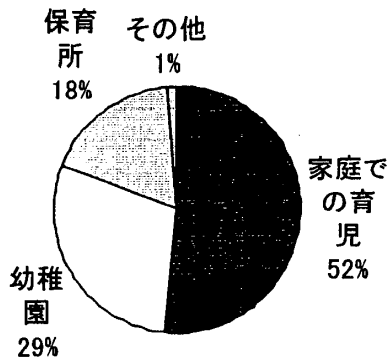


図5 子育ての主たる場所

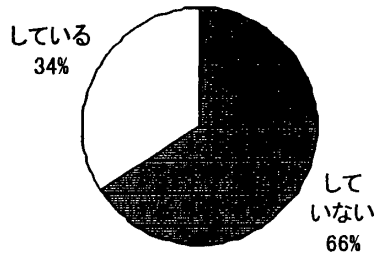


図6-1 習い事の受講

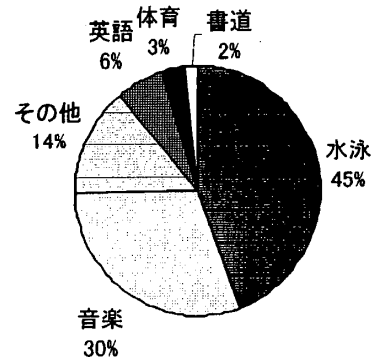


図6-2 習い事の内容

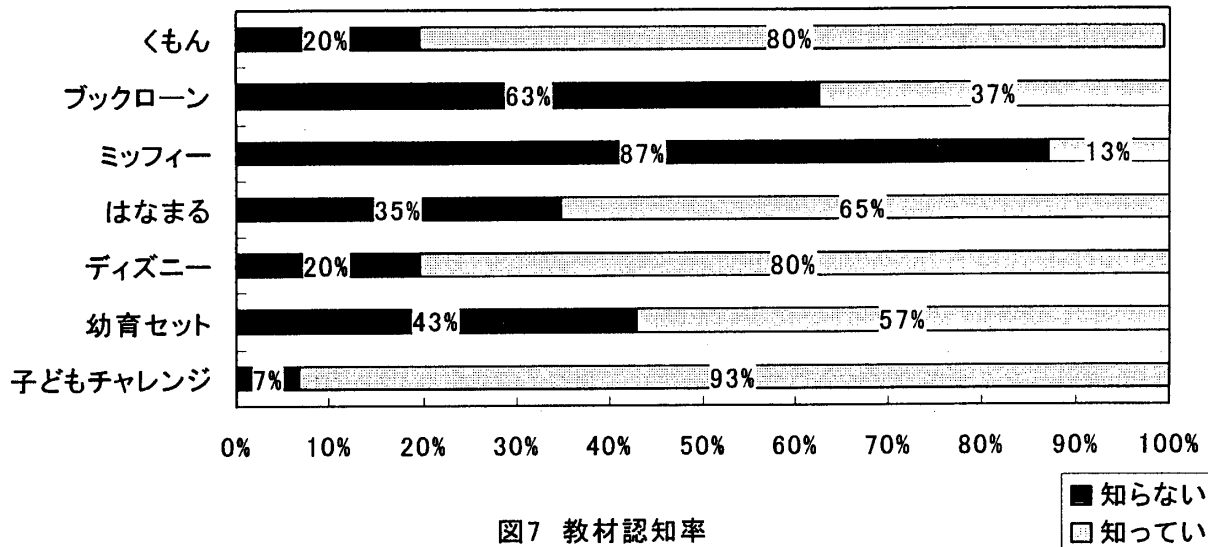


図7 教材認知率

参加している母親を中心に配布したためと思われる(図5)。

また幼児教育教材以外にそのような習い事をしているのか尋ねたところ全体の34%が実施していると回答し、その45%が水泳であった。また、習い事をしている内の24%が、何らかの習い事を2つ以上掛け持ちしていた(図6-1, 6-2)。

### B. 幼児教育教材について 利用者の意識

幼児教育教材の認知について尋ねたところ、ブックローンとミッフィーの英語以外は、全て50%を越えていた。特に、ベネッセの子どもチャレンジは、93%とほとんどの母親が知っていた(図7)。幼児教育教材を実際に活用しているかどうかを尋ねたところ、35%が受講していると回答した(図8)。また、受講者を年齢別に集計した。結果は、1歳1名、2歳6名、3歳9名、4歳6名、5歳9名、6歳11名であり、これは就学年齢に近づけば近づくほど高くなっていることを示している。

また受講していない人には、なぜ受講していないのかを自由回答で答えてもらったところ、その多くは早

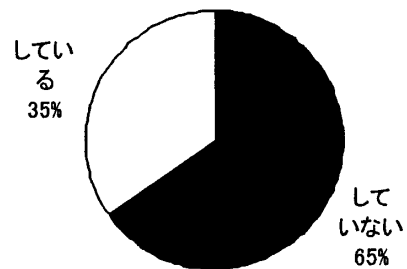
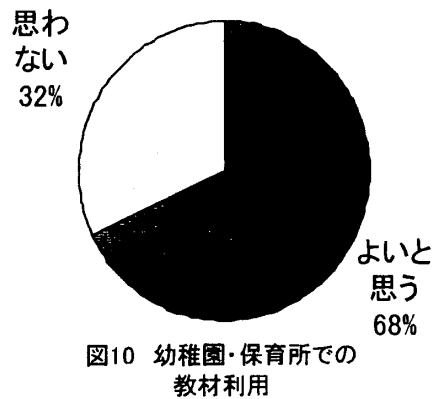
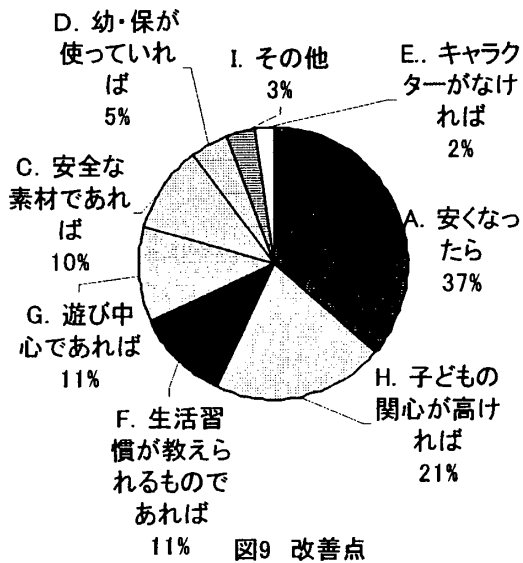


図8 幼児教育教材の受講

期教育に対して否定的な意見であった。具体的なものをあげる。

- ・自分から言い出すまでやらせる必要はない。
- ・小さい頃は体を使って動くのが自然。
- ・お兄ちゃんがやっているのでも本人もしたがる。
- ・幼稚園では集団の決まりや人とのかかわりを学んで欲しい。
- ・学校で習うので必要ない。



- ・親が迷っている以上現時点では受けさせることができない。
- ・小学校までは遊ぶのがよい。
- ・子どもが意欲を見せるまでやらせない(しかし遠ざけるということではない)。
- ・早くからやるとバーンアウトしてしまうので、精神面で鍛えておくのが必要。
- ・遊びの中で自然に・・・が基本。知育教育にひっかかる。
- ・もちろん勉強づけには反対ですが、日本人は日本語しかできない人がほとんどで世界から遅れてしまう。せめて英語はマスターしてほしい。
- ・もっと大切なことがあるはず。今は必要ない。
- ・子どもがやりたいといえればやらせる。親がお膳立てするのはどうか。
- ・年齢にあった発達や個性を伸ばすような体験、遊びをしてほしい。
- ・幼児教育教材を行うよりも、仲間関係を築くことや親子のふれあい、外遊びを重視している。

なかには受講したけれど子どもが興味を示さなかった、上の子の時は受講したけど、飽きやすかったので、下の子の時には受講しない、という回答もあり、子どもが興味を持たないときには強制しない傾向にある。また近年の幼児教育教材は、その多くが母子一緒にするものも少なくなく、受講することにより、親がそれに関わらなければならず、そのための時間がない、という現実的な答えもあった。

しかしながら利用していない母親に、どのように改善されれば幼児教育教材を利用しようとするかと尋ねたところ、「価格が安くなったら」(37%)が突出して、

次に「子どもの関心が高いもの」(21%)、「遊び中心であれば」(11%)と続いていた(図9)。「価格が安くなったら」の項目を4割近くの母親が選択していることから、表面的には幼児教育教材が知育偏重だとして遠ざけていても、その実、価格が手ごろのものになれば、利用したいと考えているといえるだろう。このことは、現代の子育てをする母親の実像を浮き彫りにしているといえよう。

自由記述の項目から伺えるように、家庭で使用するのには否定的な回答をしている場合が多いが、それを幼稚園や保育所での教材を利用することについては、賛成意見が68%であった(図10)。この点についての理由は、だいたい次の2つに集約された。まず第一は教材が高価なため幼稚園や保育所で購入してもらえたらという、費用負担の問題である。第二に、基本的に早期教育には反対だが、子どもが小学校準備段階である5歳児になると、子どもの数字や文字への興味を高めるために、幼稚園や保育所で実施してもよいという、小学校教育との連続性を考えている親が多いことを示しているといえよう。この点に関し藤永(1991)は、わが国の幼児教育が情操教育へ重きを置きすぎた結果、知的教育が排除され、「日本の幼稚園と小学校との境界には、他国には見られない亀裂と断絶が生まれ」(p. 45)と、指摘しているが、対象とした母親は、それを商業的な幼児教育教材に代用させても良いと考えているようである。

#### 利用の実態

数ある幼児教育教材の中で、なぜその教材を選んだかについて、その選択の理由を尋ねたところ、「内容が気に入った」「価格が手ごろ」という順に多かった。こ

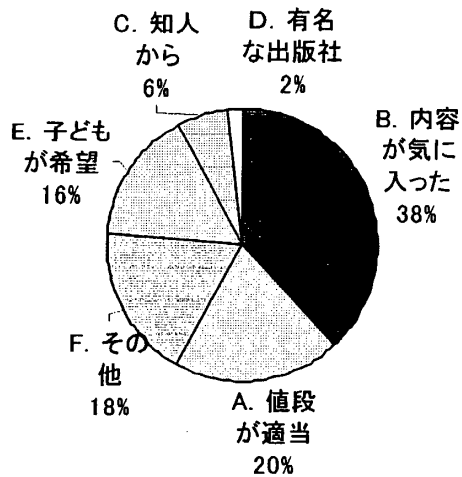


図11 購入理由

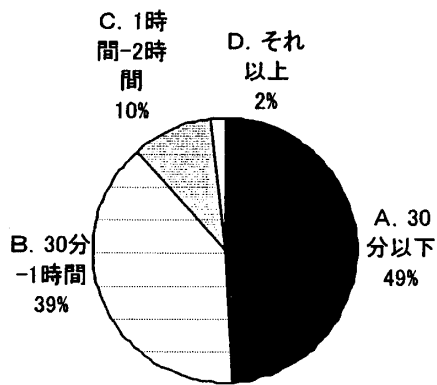


図13 一回の使用時間

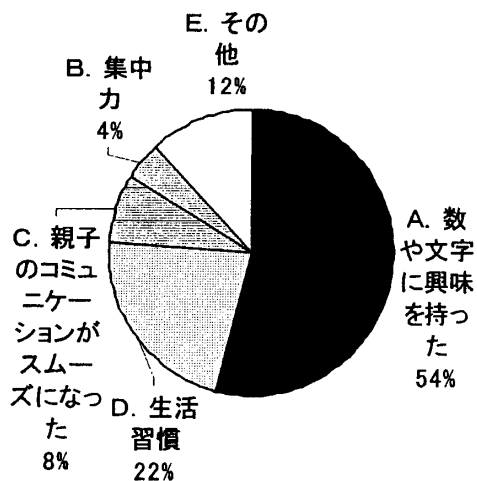


図15 教材の効果

の二つの理由をあわせて、50%を超えていることから、教材選択の際には内容と費用が母親の関心事であることが伺える(図11)。

幼児教育教材について、多くの子どもは週に2、3回、1日30分以下、おもに音楽やお絵かき絵本を使っ

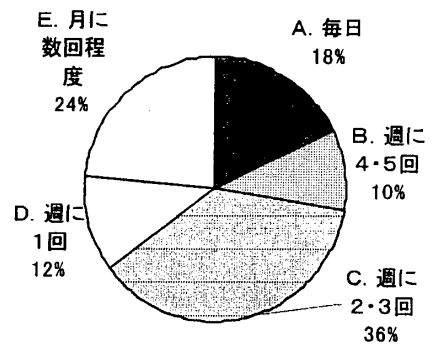


図12 使用頻度

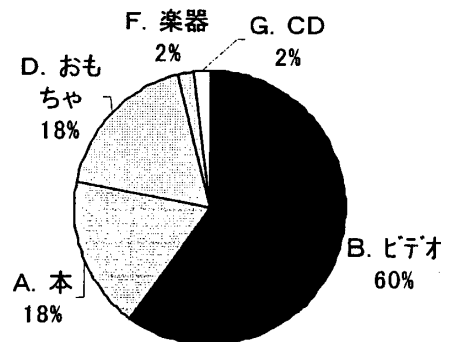


図14 好きな媒体

た利用がされていた(図12, 図13)。

とくにビデオテープが母子ともに好まれていた(図14)。このような教材の効果について、利用者に尋ねたところ、まず第一に「文字や数字に興味を持つようになった」という回答が多く、次に「生活習慣の確立」に役立つというものがあった。逆に「集中力がつく」「親子のコミュニケーションの拡大」という回答は少なかった(図15)。

### (3) まとめと課題

市販の幼児教育教材・プログラムの対する母親の意識と利用について、本研究で調査した。その結果、次のようにまとめることができる。

- ・比較的多くの家庭で市販の幼児教育教材・プログラムが利用されていた。
- ・利用する母親の意識としては、知的早期教育というよりも、「しつけ」「身辺処理」などを期待するところも大きい。
- ・しかし具体的な効果としては「文字や数字に興味」を

- 持つようになったことをあげていた。
- ・あえて利用しない母親は、幼児期は子どもの遊びや子ども自身の関心を重視し、必要ないとするものの、価格が手ごろであれば使ってみたいとする二面性があった。
  - ・市販の幼児教育教材・プログラム使用の判断には、コストの問題が大きく関係している。

### 付記

本研究は、広島大学教育学部リサーチオフィス平成12年度経費『幼児期教育カリキュラム開発に関する基礎的研究』の一環として行われ、その報告書に加筆・修正を行ったものである。

### 謝辞

本研究に快く協力してくださった、東広島市の子育てサークルのみなさま、福島市及び宮崎市の保育所のみなさまに感謝申し上げます。

### 引用文献

- エルキンド 1991 「ミスエデュケーション（寺島幾子訳）」大日本図書
- 藤永保 1991 『幼児教育を考える』岩波書店
- 無藤隆 1998 『早期教育を考える』NHKブックス
- \*以下の論文は、全て日本保育学会発表論文集からの引用である。
- 青島由美子 1995 「早期英語教育ビデオ教材の比較検討1」 pp. 178-179
- 青島由美子 1996 「早期英語教育ビデオ教材の比較検討2」 pp. 146-147
- 青島由美子 1997 「早期英語教育ビデオ教材の比較検討3」 pp. 270-271
- 岩田弥富・国広勝代・徳田正子・石川正一 1993 「幼児期におけるペンシルドローイングの研究1」 pp. 626-627
- 出原大 1993 「保育環境としての電子楽器」 pp. 230-231
- 出原大 1994 「保育環境としての電子楽器Ⅱ」 pp. 560-561
- 遠藤雅子・安見克夫・横山真貴子・秋田喜代美 1998 「保育における絵本と映像（video）の効果検討（1）（2）」 pp. 542-545
- 大藤素子 1999 「幼児の積み木遊びにおける問題解決能力の研究」 pp. 586-587
- 奥田援史 1999 「早期教育に対する母親の期待」 pp. 824-825
- 高嶋糸・大内美千子 1996 「幼児の早期教育と知的教育—知的教育の段階的分類—」 pp. 144-145
- 高嶋糸 1996 「家庭における知的教育媒体の意義に関する一考察」 pp. 142-143
- 永田桂子 1993 「玩具の機能的分類・試案」 pp. 474-478
- 永田桂子 1995 「現代玩具のパラダイム・試案」 pp. 176-177
- 中橋美徳・福岡貞子・森川紅・坂根美紀子 1997 「視聴覚教育の研究Ⅱ—幼児教育における視聴覚教育・教材の位置づけ—」 pp. 272-273
- 長谷雄一 1993 「幼児の数教具・教材研究」 pp. 724-725
- 橋爪千恵子 1995 「幼稚園におけるテレビ視聴に関する研究（2）」 pp. 354-355
- 松村和子 1996 「豊かな言語環境を作る『保育教材』の研究」 pp. 138-139
- 森田健宏 1999 「幼児の映像理解に関する研究（3）」 pp. 108-109

Appendix : 幼児教育教材一覧

形	名前	会社	値段	対象	学習形態	研究者	特徴・その他
CD-ROM	グレン・ドーマンのピッツの世界1~10	テラソフト	9800	0歳から	PC学習	グレン・ドーマン	
CD-ROM	ゆにかちゃん *値段は6巻セット:現在10巻まで	テラソフト	190000	0歳から	PC学習	グレン・ドーマン	マックのみ
CD-ROM	サンリオタイニーパークvol.1-4	サンリオ	各3800	2歳から	PC学習		
CD-ROM	Busy Little Brains	Enchanted learning software	25ドル	2歳~6歳	PC学習	アップル社の推薦プログラム(1997)	マック英語版のみ
CD-ROM	あそんでかず・すうじ	学習研究社		3歳~7歳	PC学習		
CD-ROM	The Fun Room "Kids"	ピックス		幼児	PC学習		
CD-ROM	ミフィー初めて出会うパソコンソフト2お絵かき	セガ・エンタープライズ	3770		PC学習		
玩具	レゴダクタ教材	Learning systems	最大 242000	0歳~大人	家庭学習	MIT/シーモアハート教授のコンストラクションイズム	教室開催
語学教材	トーキングカード・ポップボックス	ソニー	19800	1歳~6歳	家庭学習		日本語と英語
セット	はなまるきっず・4さい	学研	17281	4歳	通信学習		
セット	はなまるきっず・5さい	学研	17281	5歳	通信学習		
セット	はなまるきっず・6さい	学研	17281	6歳	通信学習		
セット	こどもちゃれんじ・ぶち	ベネッセ	18396	1歳~2歳	通信学習		
セット	こどもちゃれんじ・ぼけっと	ベネッセ	18396	2歳~3歳	通信学習		内容はビデオ、雑誌、絵本、玩具など
セット	はなまるきっず・はじめて	学研	17281	2歳~3歳	通信学習		絵本、親向け雑誌、玩具、CDなど
セット	こどもちゃれんじ・ほっぷ	ベネッセ	18396	3歳~4歳	通信学習		
セット	こどもちゃれんじ・すてっぷ	ベネッセ	18396	4歳~5歳	通信学習		
セット	幼児のかがく・ぶちか	学研	9636	4歳~6歳	通信学習		理科。図鑑+科学教材
セット	こどもちゃれんじ・じゃんぶ	ベネッセ	18396	5歳~6歳	通信学習		
セット	家庭保育園	日本学校図書株式会社		胎児から	家庭学習	カール・ビッテの理論	
セット	トータル幼児セット	中央出版	288000	幼児	家庭学習		
セット	トータルビデオセット	中央出版	360000	幼児	家庭学習		上にビデオが付属したもの
セット	トータルUFOセット	中央出版	400000	幼児	家庭学習		英語リピーター付き
セット	トータルグランデセット	中央出版	600000	幼児	家庭学習		
ビデオ	秀逸ビデオシリーズ	スターシップ	2415- 3400	幼児	家庭学習	星みつる	ひとりできるもん!の教材を作っている

\*2001年1月現在